



みやがわ のりみつ 議員 宮川 徳光

問 平成23年3月の東日本大震災の発生後、新たな浸水想定、加えて34mという全国一の津波予想高もあり、この7年間ほどは防災一色と言っても過言ではなかった。これに

庁舎高台移転

より住民に寄り添う行政を

庁舎位置で姿勢変わらず

より、庁舎も高台移転となり、来年当初からサービス開始の運びとなっている。

この庁舎移転を大きな転機と捉えると、今後、より住民に寄り添う行政運営が必要と考えるが、基本的な考えは。

答 大西町長

大前提として、庁舎の位置がどこに変わろうが、これまでの姿勢は変わらない。

組織については、それぞれの課題を共有する中で、課題へのチャレンジ精神、前例にとらわれず、新しい黒潮町の将来を築き上げていくそのステップをきつちり踏んでいくといったマインドを組織全体に定着させたい。

また、すべてが庁舎内で完結するわけではなくて、職員はこれまでだが町内各地へ出向いている。この姿勢も忘れず、住民の皆様に対し物理的な距離は離れたけれども、心配していたようなことではなかったなと一日も早く思っていただけのように、精一杯努力する。

高規格道路

盛土計画 津波への影響は

現状不明、詳細設計で検討

問 入野地区や鞭地区については、津波への堤防効果を期して盛土の計画とのことだが、この道路の計画概要と、予想される影響は。

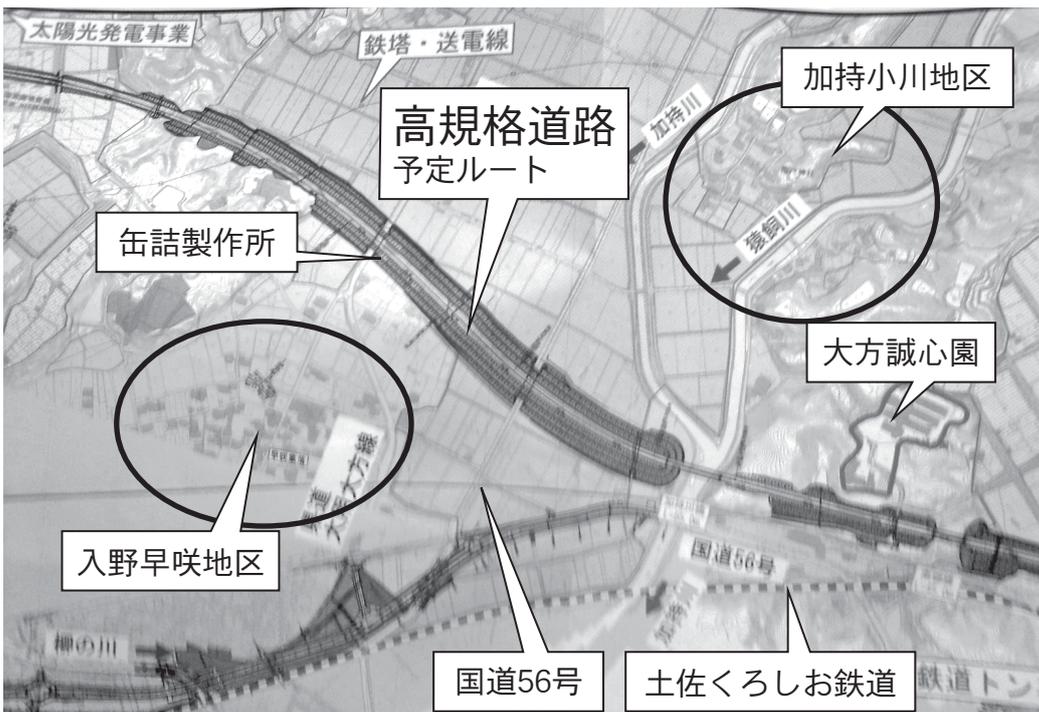
答 金子まちづくり課長

計画の概要は、高知県が平成24年12月に発表した津波浸水予測により、浸水しない路面高が設定され、維持管理面や経済性等から総合的に判断して盛土構造に決定し、高さは入野早咲周辺の最大浸水深10mより高い計画と伺っている。

今後の予定は、3年ほどかけて測量した後、詳細設計に入っていく。その詳細設計を進める中で地元説明会を行い、道路構造等についても地元との協議をする。

その後、4年目から5年目に用地測量、用地買収へと入り、用地が購入された段階で工事を行うと伺っている。

津波への影響は、現地測量等を踏まえ詳細設計の中で検討するとしており、津波高等への影響は、現在では分かっている。



盛土による高速道路の計画が進む入野早咲地区周辺